

2026年度二番茶の取引状況

本年度の一番茶・二番茶は昨年を大きく上回る価格水準で推移し、茶業界全体として過去に例を見ない相場展開になりました。一番茶の価格高騰により茶商の下物在庫が少ない中、ドリンク関連の仕入れ業者が積極的な仕入れで二番茶価格を維持牽引してなかなか相場が下がらない展開になりました。

根本的な原因は茶園が抹茶用の碾茶生産に比重を移したことにより、煎茶の生産が極端に減少したため、煎茶が供給不足に陥ったためです。

茶園を被覆して碾茶に転換するのに2～3年はかかります。また今後碾茶園を普通茶園に戻す事になっても2～4年はかかると言われております。新しく茶園を造成し苗から育てた場合、最低5年はかかると言われております。

従って煎茶の供給量は数年は回復しないだろうと予想されています。

その何年間はお客さまを始め、茶業界全体が厳しい状況に置かれることになります。

令和6年～8年の静岡茶市場及び鹿児島茶市場2番茶取扱状況

		令和8年(7/6現在)		令和7年最終実績		前年比 (%)	
		数量(kg)	単価(円)	数量(kg)	単価(円)	数量	単価
静岡茶市場	県内	441,961	2,345	382,397	1,387	115.6	169.1
	県外	266,435	2,279	336,787	1,226	79.1	185.9
鹿児島茶市場		1,460,994	2,412	1,518,318	1,359	96.2	177.5

		令和7年最終実績		令和6年最終実績		前年比 (%)	
		数量(kg)	単価(円)	数量(kg)	単価(円)	数量	単価
静岡茶市場	県内	382,397	1,387	330,113	643	115.8	215.7
	県外	336,787	1,226	266,694	634	126.3	193.4
鹿児島茶市場		1,518,318	1,359	2,309,382	680	65.7	199.9